

# Oracle9i Discoverer Administrator

リリース・ノート

リリース 9.0.2

2003 年 1 月

部品番号 : J06502-02

## 目次

認証およびシステム要件 .....	2
Oracle9i Application Server のバージョン .....	2
Discoverer 3.1 からの移行 .....	2
既知の制限事項と対応策 .....	2
Oracle Warehouse Builder で使用する系統ワークブックのインストール .....	2
識別子で非サポートになる文字 .....	3
クエリー・リライトおよびリモート・データベース（バグ 1504880） .....	3
新規 EUL 作成時、テーブルスペースの領域表示が不適切 .....	4
ドキュメントの正誤情報 .....	4
Oracle9i Discoverer Administrator 管理ガイド .....	4
外部サマリー・フォルダの作成時に必要となる権限の変更 .....	4
Discoverer Plus および Discoverer Viewer のレジストリ設定について .....	4
Discoverer と Oracle9i Application Server のコンポーネントとの併用 .....	4
EUL ステータス・ワークブック .....	5
未翻訳のエラー・メッセージ .....	5
EUL ワークブックの位置 .....	5
Oracle9i Discoverer Administrator チュートリアル .....	6
vidstr.eex の場所 .....	6
demodata.sql の場所 .....	6



Oracle と Oracle のロゴは Oracle Corporation の登録商標です。Oracle9i は、Oracle Corporation の商標です。記載されているその他の製品名および社名はその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれ該当する所有者の商標です。

このドキュメントは、Oracle9i Discoverer Administrator とそのマニュアルに記載された機能との相違点についてまとめたものです。

**関連項目：**『Oracle9i Developer Suite リリース・ノート』

## 認証およびシステム要件

認証およびシステム要件の詳細は、『Oracle9i Developer Suite for Windows and UNIX インストール・ガイド リリース 2 (9.0.2)』またはホームページのシステム要件を参照してください。

## Oracle9i Application Server のバージョン

今回のリリースの Oracle9i Discoverer Administrator は、次の製品で認証されています。

- Oracle9i Discoverer Desktop 9.0.2
- Oracle9iAS Discoverer Plus および Oracle9iAS Discoverer Viewer (Oracle9i Application Server リリース 2.0 (9.0.2) のコンポーネント)

## Discoverer 3.1 からの移行

Discoverer 4.1 以前のリリース (3.1 など) から移行する手順は、次のとおりです。

1. Oracle Discoverer Administration Edition 4.1 を使用して、3.1 EUL から 4.1 EUL に移行します。
2. Oracle9i Discoverer Administrator 9.0.2 を使用して、4.1 EUL から 5.1 EUL に移行します。

Oracle Discoverer Administration Edition 4.1 をお持ちでない場合は、オラクル社のカスタマ・サポート・センターから入手できます。

(注意：Oracle9i Discoverer Administrator の旧名は、Oracle Discoverer Administration Edition です)

## 既知の制限事項と対応策

### Oracle Warehouse Builder で使用する系統ワークブックのインストール

Oracle Warehouse Builder (OWB) Discoverer ブリッジの説明は、『Oracle9i Warehouse Builder ユーザーズ・ガイド』(リリース 9.0.2、部品番号 J06447-01) の第 11 章「管理」と付録 H「ブリッジ：転送パラメータおよび転送に関する考慮事項」を参照してください。

系列化ワークブックを使用する場合は、最初に OWB と Discoverer ブリッジを使用して Discoverer EUL を生成する必要があります。Discoverer ブリッジにより、OWB 内のフォルダや項目の系統を保持する Discoverer インポート・ファイル (.eex) が生成されます。これにより、この .eex ファイルを Discoverer EUL にインポートできます。系統ワークブックは、次の方法で生成されたビジネス領域内でのみ有効です。

1. Oracle9i Discoverer Administrator に Discoverer EUL のスキーマ所有者としてログインします。
2. lineage.eex ファイルをインポートします。
3. SQL\*Plus に Discoverer EUL のスキーマ所有者としてログインします。

例

```
> SQLPLUS myeul/myeul@myconnection
```

4. lineage.sql ファイルを実行します。

例

```
> start d:\lineage.sql
```

このスクリプトでは、次の情報の入力と確認を求められます。

- OWB URL マシン名・ドメイン名 : ポート  
例 : `http://myserver.us.mycompany.com:7777`
- `mod_plsql` への OWB 仮想パス (デフォルトは `pls`)  
例 : `pls`
- OWB データベース・アクセス記述子 DAD (デフォルトは `portal30`)  
例 : `portal30`
- OWB ブラウザ・スキーマ  
例 : `myowbinstall`
- OWB ホスト名 (OWB9i リポジトリを実行するマシン名)  
例 : `myserver`  
この名前は、OWB ブラウザ登録で使用する名前と正確に一致する必要があります。
- OWB SID (データベース・インスタンス名)  
例 : `9iASdB`
- OWB リポジトリの格納先となる OWB スキーマ  
例 : `owbrep`

5. Oracle9iAS Discoverer Plus、Oracle9iAS Discoverer Viewer、または Oracle9i Discoverer Desktop に、EUL のスキーマ所有者としてログインし、系統ワークブックを開きます。

EUL をエクスポートして再度インポートする場合は、`lineage.sql` ファイルを再度実行する必要があります。

あらかじめ EUL5.eex ファイルがある場合は、すでに系統ワークブックがデータベースに存在します。この場合に必要な作業は、`lineage.sql` ファイルの実行のみです。

## 識別子で非サポートになる文字

Discoverer では、識別子を使用することにより、異なるエンド・ユーザー・レイヤー (EUL) 間で EUL のオブジェクトを一貫して参照できます。この機能は、開発 EUL で加えた変更内容で本番 EUL を更新する際に非常に便利です。EUL オブジェクトの識別子プロパティは、「プロパティ」ダイアログからアクセスできます。

Discoverer の将来のリリースでは、識別子で利用できる有効な文字が変更されます。今回のリリースでは、非サポートになる文字を含む識別子を作成しようとすると警告が表示されます。また、Discoverer Administrator を使用して非サポート文字を含む識別子を格納した `.eex` ファイルをインポートすると、インポート・ログに警告が表示されます。非サポートの文字を使用している識別子を変更し、Discoverer の将来のリリースでの使用に備えてください。

Discoverer の将来のリリースでは、次の文字が識別子で非サポートになります。

`! ~ * ( ) ' -`

識別子で利用できる文字は、次のとおりです。

`A..Z、a..z、0..9、_`

## クエリー・リライトおよびリモート・データベース (バグ 1504880)

Oracle8i/9i データベースでは、マテリアライズド・ビューのディテール・テーブルがリモート・データベースに存在する場合、クエリー・リライトが実行されません。このバグの対処法は、作成中のサマリーが外部サマリーまたは管理サマリーであるかによって、次のように異なります。

### 外部サマリーの場合

1. サマリー・ウィザードを使用して、外部サマリーを定義します。
2. データベースに、Discoverer で作成したマテリアライズド・ビューのすべての列を選択するビューを作成します。
3. 手順 2 で作成したビューを外部サマリー表として登録します。

## 管理サマリーの場合

1. サマリー・フォルダの各組合せに対して、データベース記憶域プロパティ（サマリーの編集の「組合せ」タブに表示）から基礎となるマテリアライズド・ビューの名前を決定します。
2. 手順1で検出した基礎となるマテリアライズド・ビューのそれぞれに対して、上述の外部サマリーの場合の手順を繰り返します。
3. サマリー・フォルダに対して「問合せに使用可能」プロパティを「いいえ」に設定します。

リモート・データベース用のサーバー・ベースのリライト機能や高速リフレッシュ機能は、将来のリリースでサポートされる予定です。

## 新規 EUL 作成時、テーブルスペースの領域表示が不適切

Administrator の EUL 作成ウィザードを使用して、Oracle9i 上に EUL および、新規ユーザーを作成する場合、ウィザード上の「デフォルト表領域」、および「一時表領域」の「空き領域 (MB)」と「自動拡張」の表示が、一部不適切な場合があります。

## ドキュメントの正誤情報

この項では、ドキュメント内の既知の誤りについて説明します。

## Oracle9i Discoverer Administrator 管理ガイド

『Oracle9i Discoverer Administrator 管理ガイド』の部品番号は、J06998-01 です。

### 外部サマリー・フォルダの作成時に必要となる権限の変更

『Oracle9i Discoverer Administrator 管理ガイド』の第15章「手動によるサマリー・フォルダの作成」の「Discoverer でサマリー・フォルダを手動で作成する前提条件」に、次の説明が記載されています。

Discoverer で外部サマリー表を使用する場合、EUL の所有者は次の要件を満たしている必要があります。

- 外部サマリー表への SELECT アクセス権限を保有していること
- 明示的に（データベース・ロールを経由することなく）SELECT アクセス権限を付与されている

しかし、Oracle9i データベースに外部サマリー・フォルダを作成する場合、必ずしもこの権限だけでは十分ではありません。マテリアライズド・ビューが事前に作成されたコンテナに存在し、作成者と所有者が異なる場合、作成者はコンテナ表に対する SELECT WITH GRANT 権限を持つ必要があります。

このためいずれの場合も、「SELECT」は「SELECT WITH GRANT」（Oracle9i データベースの場合）となります。

### Discoverer Plus および Discoverer Viewer のレジストリ設定について

『Oracle9i Discoverer Administrator 管理ガイド』の22-2 ページに、次のレジストリ・キーが記載されています。

¥¥HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥Software¥Oracle¥Oracle9iASDiscoverer¥..

正しくは次のレジストリ・キーになります。

¥¥HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥Software¥Oracle¥WebDisco 902¥..

### Discoverer と Oracle9i Application Server のコンポーネントとの併用

第18章「Oracle9i Application Server のコンポーネントとともに Discoverer を使用方法」の項「Oracle9iAS Portal とともに Discoverer を使用方法」における変更は、次のとおりです。

#### データベースに保存されているワークブックのリスト・ポートレットの追加方法

手順4では、「ページの編集」をクリックして「ページのコンテンツの変更」ページを表示すると記載されています。正しくは、「編集」をクリックして「ページのコンテンツの変更」ページを表示します。

手順4の後、ページ上部の「ビューの編集」オプションから「レイアウト」をクリックしてください。

手順 9 では、作成したポートレットの横の「デフォルトの編集」をクリックしてポートレット・ウィザードを起動すると記載されています。作成したポートレットの横に「デフォルトの編集」リンクが表示されない場合は、ページ上部の「ビューの編集」オプションから「レイアウト」をクリックしてください。

#### ワークシート・ポートレットの追加方法

手順 2 では、「ページの編集」をクリックして「ページのコンテンツの変更」ページを表示すると記載されています。正しくは、「編集」をクリックして「ページのコンテンツの変更」ページを表示します。

手順 2 の後、ページ上部の「ビューの編集」オプションから「レイアウト」をクリックしてください。

手順 7 では、作成したポートレットの横の「デフォルトの編集」をクリックしてポートレット・ウィザードを起動すると記載されています。作成したポートレットの横に「デフォルトの編集」リンクが表示されない場合は、ページ上部の「ビューの編集」オプションから「レイアウト」をクリックしてください。

#### EUL ステータス・ワークブック

第 19 章「EUL ステータス・ワークブック」の項に対する変更は、次のとおりです。

- 19-6 ページの項「Oracle Application の EUL ステータス・ワークブックのインストール方法」（手順 6、6c、および 6d）の EUL5\_APPS.EEX の参照は、正しくは eul5.eex です。
- 項「Discoverer EUL V5 のビジネスエリアのアンインストール方法」に対する変更は、次のとおりです。

手順 1 の後に、次の説明を追加してください。

---

---

**注意：** EUL ステータス・ワークブックが Oracle Applications EUL にインストール済である場合は、ワークブックを削除するために EUL の所有者として Discoverer Plus に接続できません。そこで、Discoverer Administration Edition のコマンドライン・インタフェースを使用して、コマンド・プロンプトで次のコマンドを入力してワークブックを削除します。

```
<ORACLE_HOME>%discoverer902%bin%dis51adm.exe /connect  
<eulowner>/<eulowner@password>@<database> /delete /workbook  
"<workbook name>"
```

<workbook name> は、「EUL Data Definition」または「Query Statistics」です。

---

---

#### 未翻訳のエラー・メッセージ

製品をご使用中に表示されるさまざまなエラー・メッセージの翻訳が完了して追加されました。これらのエラーは番号で表示されます。これらのエラーの説明は、次のとおりです。

メッセージ番号	説明
3755	このユーザーには、CREATE ANY TABLE 権限および DROP ANY TABLE 権限が必要です。
3757	Discoverer の内部機能と同じ ID を持つユーザー定義機能をインポートする場合に、このメッセージが表示されます。たとえば、「Function with identifier 'EUL_226' and display name 'GROUP_ID' cannot be imported as one of these values is reserved」と表示されます。

#### EUL ワークブックの位置

EUL ステータス・ワークブックの位置が、ドキュメントに記載されている位置から変更されました。このワークブックは、%discoverer902%ディレクトリに格納されています。

## Oracle9i Discoverer Administrator チュートリアル

『Oracle9i Discoverer Administrator チュートリアル』の部品番号は、J06999-01 です。

### vidstr.eex の場所

A-18 の項「Discoverer チュートリアルのインストール方法」および A-31 の項「チュートリアル用ビジネスエリアを他の End User Layer にインストールする方法」では、Vidstr.eex は「Discoverer の実行可能ファイルと同じディレクトリに格納されている」と説明していますが、これは誤りです。

vidstr.eex の正しい場所は、<ORACLE\_HOME>%discoverer902%demo です。

### demodata.sql の場所

A-17 ページの項「Discoverer チュートリアルのインストール方法」では、demodata.sql は「%sql ディレクトリに格納されている」と説明していますが、これは誤りです。demodata.sql の正しい場所は、<ORACLE\_HOME>%discoverer902%demo です。